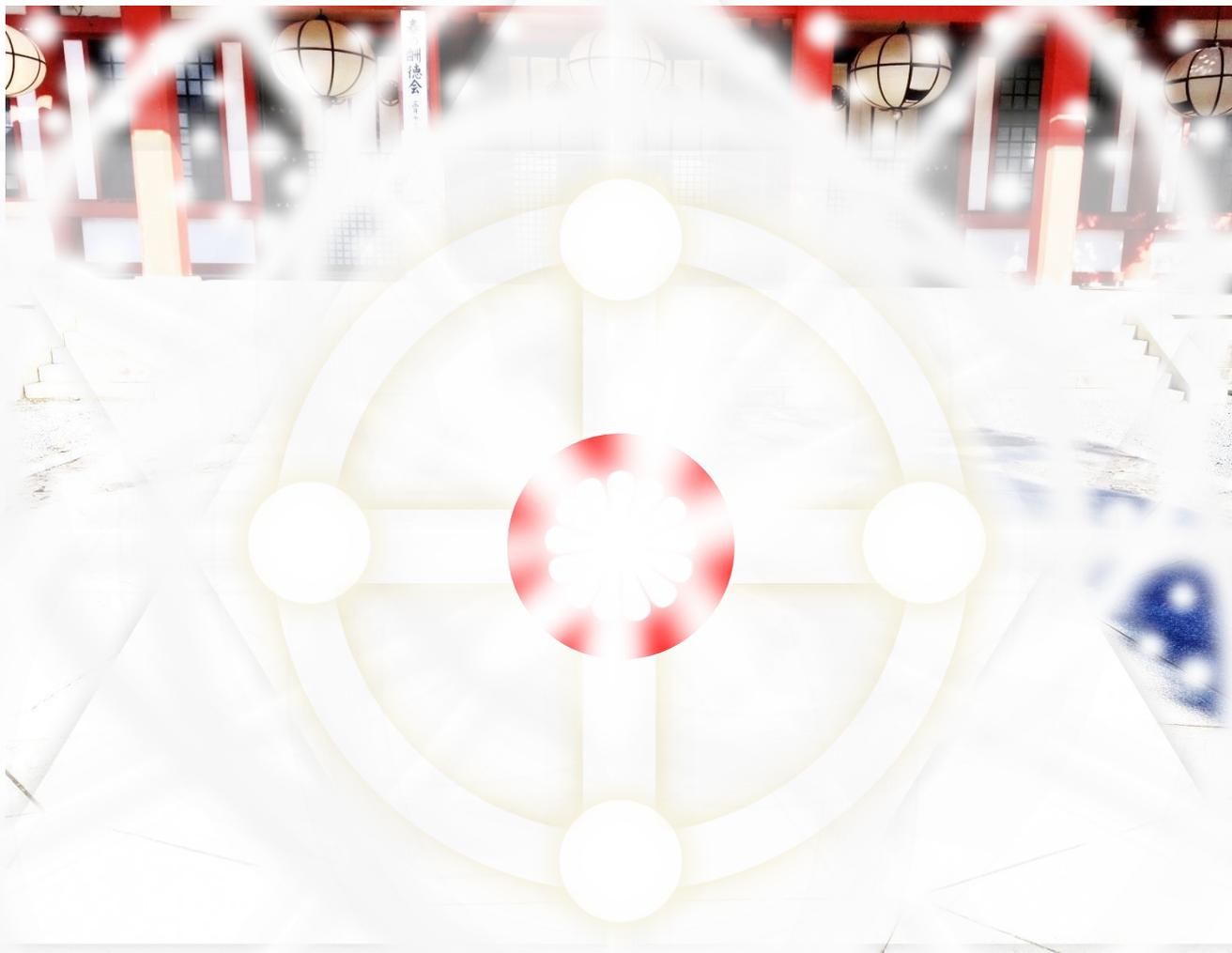


New

白山菊理姫と

グレート・ホワイト・ブラザー・フッド!!

新・G (WBH)



2020年2月、NMC アセンション・アカデミー公式“KTセミナー in 京都”が開催され

午前中の時間を利用して、“鞍馬寺” & “貴船神社”へと出かけてきました！

今回の行先は、どうしても鞍馬！という感じで、その理由は…と言いますと

2020年に入って、神智学のはじめの一步、『ハムのワクワク神智学』に取り組んだ事にあります^^

<http://ascension-hokuriku.net/5-hakusan/hamu-w-r/index.html>

神智学は、宇宙(神)の成り立ちや、人の構造、神(宇宙)と人との関係等が記された
日常生活にも役立つ、とても素晴らしい教えであると思うのですが、あまり知られていない気がして
もっと身近に、楽しく学ぶきっかけとなれば、との思いから、中今の自身の感覚で、自由に表現してみました(^^) /
『ハムのワクワク神智学(2)』の後半で“**グレート・ホワイト・ブラザーフッド**”(大白色同胞団)なる組織と
その創設者であり、地球霊王とされる“**サナート・クマラ**”登場?!となり
降誕の地と言われる“**鞍馬寺**”の事が気になっていたのです^^
朝早めの時間だった事と、コロナウィルスの影響もあるのか、人影は疎らで、ほぼ貸切状態?!
ポカポカ太陽の下、とても贅沢で幸せな時を過ごす事が出来ました^^
“コロナ”は“567”(=ミロク)であり、本来は、太陽表面の光冠を表す言葉であるとの事
新しい太陽の時代、“弥勒の世”の到来を、暗示しているような気がします
これまでの常識や価値観が否応なしに引っ張り返る、世界規模の変革、新たな創造の為のステップであり
全ての人はずながっていて、地上社会は、信頼と思いやりの心が最も大切である事等
一人ひとりが自身のこれからを見つめる、内省の時なのではないでしょうか



鞍馬寺に到着すると、左手に視線? いつも前しか見えていない私(笑)ですが、気になって目をやると
入口付近にあったお店の壁に、長い鼻がとても印象的な、天狗の面々が飾られています?!
鼻は高感度アンテナ? なんとも言えない存在感…、そして威厳が漂ってきます
鞍馬寺には2015年5月以来、3回目の訪問となりますが、今回はバスを使ってここまで来たので
叡山電鉄鞍馬寺駅のシンボル?! “赤い天狗さん”の事をすっかり忘れていました

ですが、やはり、お出迎えは天狗さんでした(笑)



2015. 5
太陽の子供“ハム”より、天狗さんへ
「はじめまして」のご挨拶?!

叔電さんのホームページによると、老朽化が進み(雪の重みで鼻が折れてしまった?!)、

2019年10月18日、リニューアルされていました!

「従来の大天狗のイメージを受け継ぎつつ、力強さの中に地域を見守る優しさや、あたたかさが表現されている」と記されていて、天狗さんも地元の方に愛されるヒーローとして、アセンション(進化)しているようでした^^



叔電さん HP より
お借りました

サナート・クマラは、天狗の総帥とも言われるようです

天狗は、恐ろしい魔物のイメージがありますが、中国では流星や隕石を表す言葉との事で

金星から地上へ降り立ったとされるサナート・クマラのように、本来は、

宇宙から降り注ぐ清らかなエネルギーが、山に住む精霊となった、神聖な存在なのではないでしょうか?

山に籠り厳しい修行を積む、山岳信仰や修験道の行者さんを指す場合もあるようで、

里人からみれば、摩訶不思議な霊力を持つ行者さんは、魔物のように感じられたのかもしれませんが

天狗さんの事が気になってなかなか進めないのは何故かしら…?と、さらに調べていると

“鳥天狗”という言葉が出て来て

T先生著書『地球一切を救うヴィジョン』の中に記されている、次のような言葉が浮かびました

「サナトクマラが金星から、鞍馬天狗で有名な鞍馬山に降臨した伝説があるでしょう。

この天狗と言われている人たちは、全部八咫鳥の集団です。すなわち全部忍者であって、

八咫鳥の流れなんです。金鷄、八咫鳥が動く時は、サナトクマラも動くということです。

ということは、地球が入れ替わるということです。」

前回作成したコンテンツ『弥勒の世』に引き続き、またまた八咫鳥さんへと繋がりました! ^^

ascension-hokuriku.net/5-hakusan/2019.10.12.pdf

神武天皇(東征)を助けたとされる八咫鳥は、皇祖“天照大神”を陰から守護する“スサノオ”の使者であり、

新GWBH(ニュー・グレート・ホワイト・ブラザー・フッド)とは、スサノオの尊をトップとする

NMCの雛型＝“弥勒の世地球”創生の為の、

神人(地上セルフに神界と天界を統合した、それら全てのポータル)部隊なのでは?と感じていたのです

天狗＝八咫鳥ならば、“サナトクマラ”＝“スサノオ”でもあるのだと思います

地球という星の主、惑星ロゴス(神)は“国常立大神”と呼ばれる神で、スサノオはその分身であり

国常立大神が次元を下げ、より人の近くまで降りた姿であるようです

天之御中主神(宇宙創造主)―**国常立大神**(地球創造主)―**素戔嗚尊**(地上の実働主)です

また、サナトクマラも、“国常立大神”の分身の一人とされますが、“神”ではなく“霊”(スピリット)であり

地球ハイラーキー(地球と人類の進化をサポートする天界のネットワーク、WBH)の長です

これまで神界の事しか頭になかった(神界も天界も一緒くたにしていた^^;)私は、

天界(スピリチュアル・ハイラーキー等)についての知識が全くなく

グレート・ホワイト・ブラザーフッド(GWBH、宇宙大白色同胞団)についても

アカデミーに参加して、初めて知った名前です

アセンションの学びを通して観えてきたのが、私達が生きる今ここ＝“**中今**”(神代を継承する今)の意義です

神は神界にあり、ハイラーキーや大天使は、天界の存在でしかありませんが

人(神人)はその中心にある“**ハートと魂**”を通して、天界と神界の、∞のポータルと成る事が可能です

神界と天界のすべての力(自己の全宇宙史)を、この地上に顕現する事のできる“神人”の世が、“中今”です

真実を探求することは、旧宇宙史におけるすべて成果の集大成(取捨選択、カルマの清算)であり

それらを新しい世界(NMC)へと生かし、更に進化、発展させていくことの出来る“究極の創造”の場ともなります

そのすべての中心・根底は“**愛**”であることを理解し、実践している存在が“神人”なのだと思います

2001年にNMC(新宇宙)が誕生した事(Ai先生著書『天の岩戸開き』より)によって、

その核心である“**根源天照皇太神**”を中心として、宇宙の高次元は完全なる統合へと向かっています

その、最も古くて、もっとも新しい、宇宙創成の為のシステム、進化を助けるマスター集団を

新G(ニュー・グレート・ホワイト・ブラザーフッド)と呼んでいるのだと思います

(目に見えない神界や天界の事は、感覚で理解するしかなので、名称や表現は様々と感じます)

私が最初にこの名前を知った時、“ホワイト”＝“白”という言葉が気に入り

古来から、“白き神々の座”とされる“**白山**”に関連があるような気がして、探求を続けてきました

七色の虹を生む太陽(神)は、白く見えるように、“白”は全ての色が統合された源の光＝“神界”の象徴とされ

そこから分かれ出た様々な色の光線は、神の徳性的一部分、具体的な働きを示す“天界”です

光源＝神界＝創造の源と、光線＝天界＝神界のサポート、神と人をつなぐシステム

神界と天界、それらすべてのポータルと成り得る人(神人)の、三位一体によって創生されていくのが

NMC(新宇宙)であり、その雛型としてある、これからの地球なのだと思います

「金鷄、八咫鳥が動く時は、サナトクマラも動くということです。ということは、地球が入れ替わるということです」

には、奇跡のような中今の真実が表現されている感じがします^^

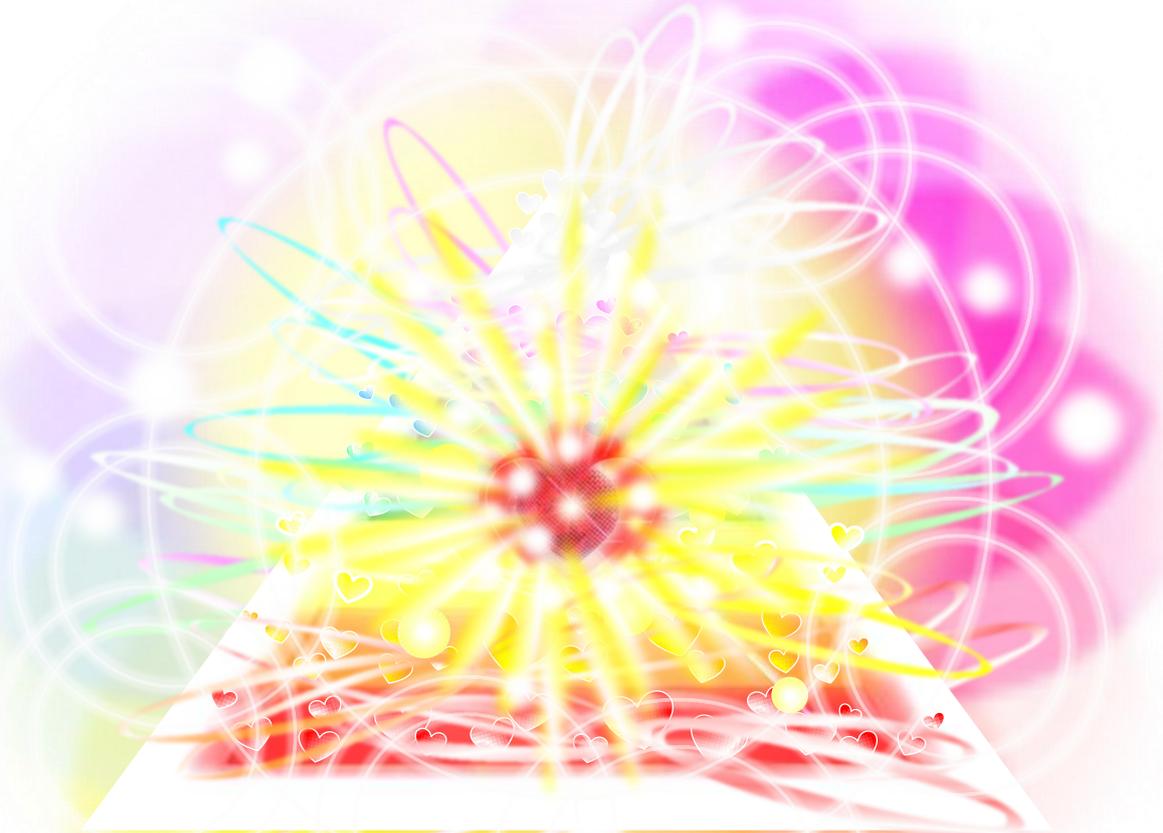
深夜、私にとって“白山”とは? “菊理姫”とは? 単なる妄想か?

何も見えず、聞こえもせず、確かなものなど何一つない…、鬱々と眠れないままいたのですが

「白山のすべてを伝えたい！」という強い思いが、

叫びとなって爆発した瞬間、大きな揺れを感じてビックリ？！

3月13日午前2時過ぎに起きた、能登を震源とする震度5強の地震でした
幸い大事に至らず、感謝に堪えませんが、それが白山からの答えであったと受け止めます



究極の白＝“白山”から生まれる ^{ミロク}36色(∞)の光
根源の愛と光の山“ハム山”

白山は“世界の山の王”とされ、頂に雪を湛える高い山々、聖山は、**白山神界**が統轄していて
それぞれが、壮大なる宇宙文明へとつながる“**神工のピラミッド**”である事

また、「**魂の故郷**」とされる白山神界からは、

神(界)・天(界)・人(人間界)の何処へでも行く事(つながる事)ができ

あらゆる全てを包含する、特殊な領域であることが、地上セルフにも少しずつ理解されてきました

これらの事から連想されるのが、「白」(根源の光)と、「王」(継承者、霊統)が重なる“**皇**”という言葉です

白山神社の総本宮は、石川県の“白山比咩神社”であり、そのホームページにおいて

御祭神は、“白山比咩^{ひめ}大神”＝“**菊理媛尊**”となっています

“**キクリ**”ヒメ、または“**ククリ**”ヒメとも呼ばれる謎の女神で、私(地上セルフ)は

白山の麓の村で生まれ、後に白山比咩神社の近くへと移転した縁もあり、ずっと気になる存在でしたが

その謎のヒントを、『**天の岩戸開き**』の中の御神歌を見つけました！

その時の感動が、NMCAAにおける日々の探求と実践を通して、確信へとつながっていきました

“菊の真意”

はるかなる 時を重ねて 受け継がる
やまどの枝の 雛形は 黄金に輝く 神魂の
神の誓(うけ)ひの 菊の型

皇御孫命

神人の核心である、全き神性の型は、黄金色に輝く皇御親の分御魂そのものを表す菊のエネルギーである。すべてには、中心となる型が存在し、世の理を担っている。神界の中に燦然と輝く太陽、それが菊の本質である。

それが「菊の理」と呼ばれるものである

そしてこれが、皇御親から皇御孫へと、脈々と受け継がれる核心の霊統であり

神人の型を担う者たちの指標であり、目指す座標なのである

“キクリ”とは

神界の中心に燦然と輝く、根源の太陽 “根源天照皇太神” = “菊” の、理 (道理、筋道) で

“根源の究極の愛の太陽” が核心となった、新しい宇宙 (NMC) そのものです

“白山菊理姫 (媛)” は、皇御親 (根源母神) である “根源天照皇太神” から生まれた “皇御孫”

= 根源の子供、分御魂、分身であり、根源太陽の地上ポータルです^^

白山神界は、“菊の理” を護り、支えることの出来る最大の力、“究極の神聖”、皇御親 (根源父神) であり

根源太陽神界と白山神界は、力愛不二、表裏一体の関係であると感じます

白山比咩大神は、その真実を今この時まで秘めてきた、“秘” 大神とも言えるのではないのでしょうか

“ククリ” とは

九分九厘の “最後の一厘” ! 拡大、分離の極限まで来た世界を

一なる根源の太陽、“根源天照皇太神” の元に括る = 統合、回帰させる働きであり、

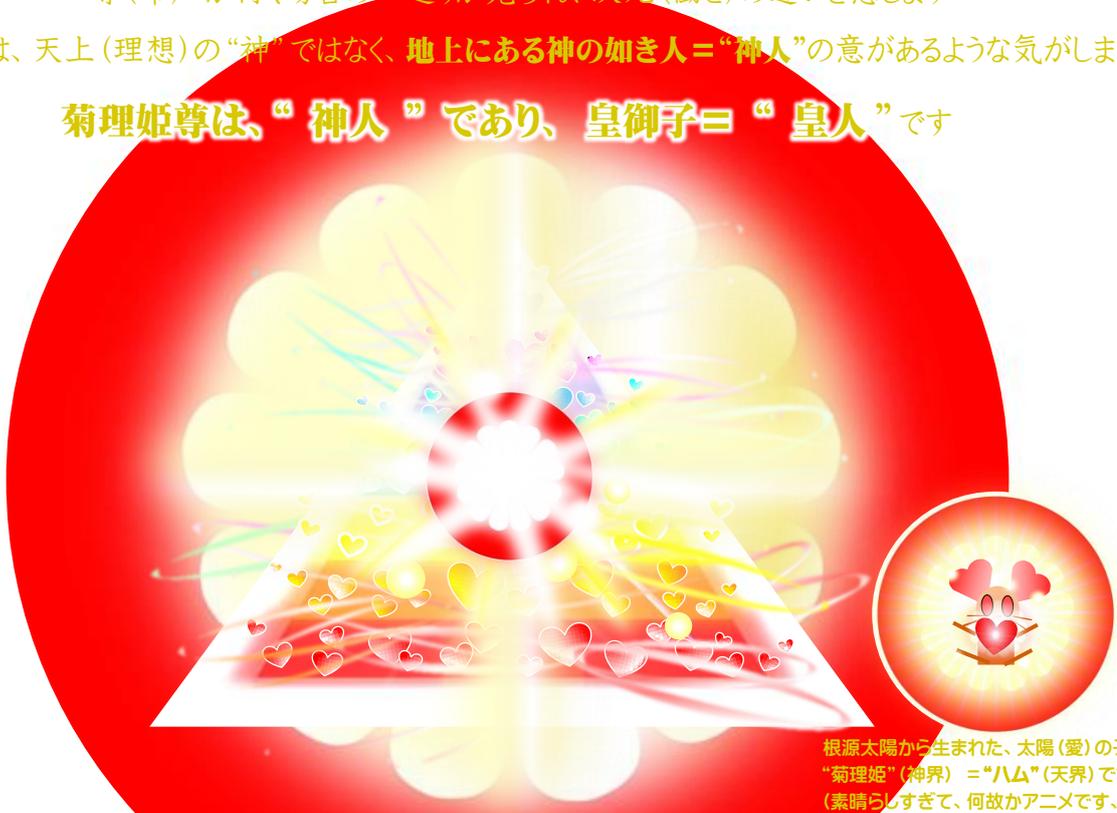
NMC 創生という中今の、重要な役割と感じます

日本という国が“天照大神”を皇祖とし、皇室を大切に継承してきたのは
NMC(新宇宙)の核心(根源天照皇太神)を擁し、
新しい弥勒の世の創生、“皇の星地球”創生の、雛形となる使命を持っているから——、
ではないでしょうか

真っ赤な愛の太陽と、包み込む真っ白な光
白の中の赤、究極の愛と神聖に守られた **根源太陽神国“日本”**
日本に住む人の心、“**大和魂**”の輝きが、国旗“**日の丸**”であるような気がします



私が中今フォーカスしている点は、菊理姫が“尊”とされている事です
白山比咩大神に対する、菊理姫の尊というように、御神名には、最後に“神”が付く場合と、
“尊(命)”が付く場合の二通りが見られ、次元(働き)の違いを感じます
“尊”には、天上(理想)の“神”ではなく、**地上にある神の如き人＝“神人”**の意があるような気がします
菊理姫尊は、“神人”であり、皇御子＝“皇人”です



根源太陽から生まれた、太陽(愛)の子供
“菊理姫”(神界)＝“ハム”(天界)です^^
(素晴らしすぎて、何故かアニメです、笑)

“白山菊理姫と、新GWBH(グレートホワイトブラザーフッド)”

皇人(神人)白山菊理姫尊の“**根源太陽にすべてを統合する意志**”＝“**ククリの発動**”！！によって
“素戔嗚尊”(地球神“国常立大神”分身)の元に、天津神・国津神が一つとなり

地上の神人をポータルとして、全神界の力を、この地上に結集する事が可能となります！
スサノオの天界の働きでもあるサナートクマラと新 G(ニュー・グレート・ホワイト・ブラザー・フッド)が
地球における、NMC 創生のための、**根源太陽システムとして起動し**
全宇宙の愛と叡智が今ここに花開く、弥勒の世＝“皇の星地球創生！！”
スメラのアカシック始動！！です



(鞍馬寺へと戻ります^^)

天狗さん達の歓迎&アピール?!を感じながら、仁王門をくぐり
白山登山に比べればなんのその!(笑)、ケーブルはやめて徒歩で上ることにしました^^



金堂の中心へ向かってニュ〜っ、と伸びる影が少し不気味で、護法魔王尊を感じます^^

今回の鞍馬寺訪問で、より明確になったのは

鞍馬寺の中心は、“尊天”とされる、宇宙(生命エネルギー) そのもので
サナート・クマラ(護法魔王尊)は、三位一体の中の、力の側面であったということです

鞍馬寺のキャッチフレーズ?! ^^

**月のように美しく、太陽のように暖かく、大地のように力強く――、
すべては尊天にてまします**

何度も唱えながら、ここまで上ってきましたが

“ハートと魂”に心地良い響きを持つ、この言葉の奥にある(本殿に祀られている)のは

慈愛…月の精霊“千手観世音菩薩”

光明…太陽の精霊“毘沙門天”

活力…大地(地球)の霊王“護法魔王尊”(サナート・クマラ)

の三体で、それらが一体となった姿、“愛と光と力”の三位一体パワーが“尊天”です! ^^

愛は“キリスト”であり、光は“仏陀”であり、それを地上に結実させるのが

力 = “サナート・クマラ”であるのかもしれませんが

このコンテンツの最初に挙げた画像は、白山からイメージされた“新G”です

本殿の金剛床にピッタリ!と感じ、重ねてみると、そこから**根源の真っ白な光(フォトン)**が、

辺り一面に広がっていくような気がして、ワクワクMAX!となりました! ^^

鞍馬寺のホームページには

「本殿金堂前の金剛床は、宇宙のエネルギーである尊天の波動が、果てしなく広がる星曼荼羅を模し、
内奥に宇宙の力を蔵する人間が、宇宙そのものである尊天と一体化する修行の場となっています。」

とあり、私もこの中心に立ち

**「地上に、根源の愛と光と力を∞に拡大する“尊天”のポータルとなります!!!」と
大きく宣言しました (^)/**

帰宅してからわかったのですが、中心にある△は尊天そのものを表しているので

その上に立つことは避けるように…^^;との事でした(以後気を付けます<(_)>)

改めて見てみると、真ん中には△が描かれていて?! まさに“尊天”=“白山”を感じます! ^^

金剛床の手前には、座布団のような形の石があります

私が一番サナート・クマラとの一体感を覚えたのは、この前に立った時です

太陽に向かうと、幸せが胸いっぱい膨らんで、両手がどんどん広がっていきます \ (^o^)/

すべては美しい光!!

そのまま全部抱えて、光の中に溶け込んでしまう気がしました

石の上に置かれた10円玉?が、金色に輝いていて、美しい星のカケラ(金星?!)に見えました^^



本殿を後にして進んでいくと、“木の根道”へと出ました
地面が固くて、根が土に潜ることができないようで、ちょっと異様な光景でもありますが
繊細で美しい、黄金色の光に包まれている感じがします
降り注ぐ陽の光と、湧き上がる地底のパワーが一つとなった、異次元の世界…





無数のエネルギーの渦が、躍動する根や枝葉に姿を変えて、
眼前に広がっているような感じです



今度は下り坂となってきました

その先に見えてきたのが、“僧正ガ谷不動堂”です



大きな声では言えませんが(笑)、私はここが、鞍馬寺の奥の院とされる
“魔王殿”と、すっかり思い込んでいました(傍らにある案内標識も目に入っていないようです…)

先に進んで、真の魔王殿が見えた時は、ありやりや～でした?!^^;

不動堂の前で深く手を合わせ、感謝と決意を述べたのですが、一体どなたに…？(笑)ということで
帰ってから調べてみると、ホームページには下記の説明がありました

「伝教大師、最澄が天台宗立教の悲願に燃え、一刀三礼を尽くし刻んだ不動明王が奉安されています。」

との事、**不動明王は、“大日如来”の化身**とされ

「煩惱を抱える最も救い難い衆生をも、力づくで救うために、忿怒の姿をしている。」(ウィキペディアより)

とあり、やはりここも魔王殿に違いない?!と、思った次第です(ポジティブ、笑)

最澄大師は、美しいクリスタルを感じる偉大な聖者で、師が一刀三礼を尽くし刻んだ明王なのだから

その莫大なエネルギーに共感(共鳴)して当たり前、と言えるのではないのでしょうか^^

鞍馬寺は1200余年前に、鎮護国家の毘沙門天と慈悲の観音を一体として併せ祀った律宗にはじまり、

真言宗、天台宗、さらに神代以前からの古神道や陰陽道、修験道等の山岳宗教の要素も含む、

宗派にとらわれることのない、すべてが統合された“鞍馬弘教”の総本山とされています

鞍馬は、“愛と光と力”が一体となった、素晴らしい聖地であり、感じたままが全てなのだと思います^^

もう一つ、この不動堂が気になった理由は、

その前に描かれていた、不思議な模様(曼陀羅?)のせいかもしれません。。



よく見ると、六芒星の中心に“巴紋”のようなものが見えます

巴紋(シャンバラの紋章とされる)は、銀河のセントラル・サン=オリオンの三ツ星を表すものであり

日本神界の三貴子“日=天照、月=月読、地=素戔嗚”の象徴でもあるとの事

まさに、**太陽・月・地球の三位一体神“尊天”**であり

不動明王が守護する、中今**根源太陽神国“シャンバラ”の紋(門)?!**かもしれません!^^

根源の愛の園=“シャンバラ”を、地上に具現する働きが、“サナート・クマラ”と“新G”でもあり

愛と光の子供達(根源太陽の子供、菊理姫)が、次から次へと湧いて出る?!

“ハムの曼陀羅”?に、見えてきませんか?(笑)



そう思えば、そんな世界が広がっていく——!!!

それが、NMCであり、神人の住む“新しい地球”なのだと思います (*^^*)

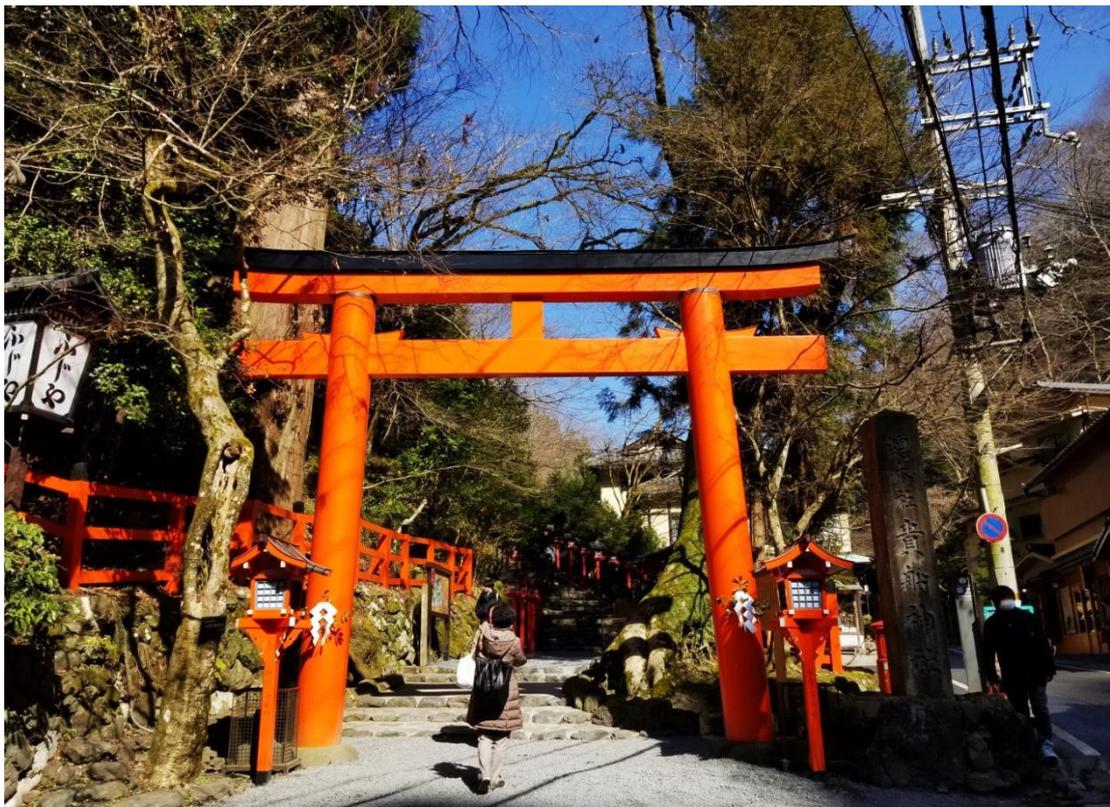
いよいよ奥の院とされる、魔王殿までやってきました



「魔王殿は太古、護法魔王尊が降臨した磐坐・磐境として崇拝されてきた所」とされます
曼陀羅(六芒星)の真ん中に、灯籠がドンと置かれていて「チェックメイト?!」と聞こえるような…(何かの蓋?)
まわりの景色は、灯籠が映し出す“光の万華鏡”? 拡散する光線の世界を感ず
向こう側は、静かな白い光の世界——
光源と光線、静と動の、両方が見えるような気がします。。 神界と天界が統合された“新G”?



ここから先は急な下り坂が続いていて、“貴船神社”へとつながっているようです
息をきらしながら、下から上がってくる方々とすれ違う度に、逆ルートはかなりキツイのでは?と感じました
鞍馬寺の終点、西門から出て、貴船川のせせらぎに心癒されながら、赤い鳥居の前まで来た時
「鞍馬は、ここ(貴船)にくるためにあった!」と、何故か思いました?
暖かい故郷へと帰ってきた安心感のような、どこか別世界へと出た感じがしました
鞍馬寺が嫌というのではなく、順を踏んで進んできた…とでもいうか、言葉にならない不思議な感覚です



貴船神社へは、鞍馬寺より前に訪れていた事を思い出しました
西門から鞍馬の方へと入ってみたかったのですが、「かなり遠いので無理ですよ～」と言われて
その日はそのまま帰ることになり、そんな事を思うと、
自分の意志だけで動いている(動ける)わけではないような気がします
行くべき時に、行くべき所へ行っているのであり、起きた事、感じたことを振り返ってみる事は
神と人(地上セルフ)、そして間をつなぐ天(界)の全てにとって、とても重要な意味を持つのかもかもしれません
ごく普通の出来事の中に、これまでは想像もつかなかった不思議な真実が隠れている場合があります
“アセンション”を学ぶ事によって、“神社仏閣巡り”が、まったく違った次元へと進化(神化)していく気がします^^

貴船神社本宮の御祭神は、水を司る神である“高麗神(たかおかみのかみ)”となっています
伊邪那岐神の御子神で、閻羅神(くらおかみのかみ)と同神とも言われるとの事ですが
私にはあまり馴染みのない祭神名で、その漢字から、水の神、龍神等であることが、想像されます
あまり知られていない=大切に秘められていた…、でもあるのかもかもしれません



貴船神社本殿は前回同様、まさに心洗われる、ピカピカ・クリスタルの空間でした^^
自身が女性であることが嬉しくなる、愛と美と調和の響き、女性性を感じる神社であるような気がします
人体の60%は水とされることから、“水”は人の命とも言える、大切なものであることがわかります
また、私達が住んでいるこの地球は、大部分が海におおわれた、美しい“水の惑星”と言われるように
水には、まだまだ私達が知らない、大きな可能性が秘められているのではないのでしょうか
水とは、美しい“根源の光”が物質化したものと言われ、地球は一滴の水からはじまったのだそうです
ということは、**私達の体もこの地球も、“根源の光の水”で出来ている…**、ということになります！
貴船に到着した時、何となくウキウキしたのは、全身の水が喜び躍っていたからなのかもしれません^^
周りの川や海の水を大切に、美しく保つことは、私達自身を大切にすることと同じであるような気がします

参拝の列に並んでいると、賽銭箱の表に「双葉葵」の紋を発見し、嬉しくなりました^^

昨年7月に、同じく「双葉葵」の紋を持つ“上賀茂神社”を訪れた時のことを思い出したからです

そう言えば、上賀茂神社手水舎の水が、驚くほど輝いて見え

本殿の隣に気になる社があったので行ってみると、御祭神は“高靈神”となっていました！

上賀茂神社さんホームページによると、その社は“新宮神社”と呼ばれていて

「境内奥地に鎮座する神社で、貴布禰神社ともいう。――

鞍馬貴船町に鎮座する貴布禰総本宮貴船神社は、江戸時代までは当神社の摂社であったが、

貴布禰川の洪水や冬季における猛吹雪のため、貴布禰詣りが不可能となったので、

貴布禰神社を新たに境内で祀られたようである」

とあり、貴船神社(貴布禰神社)と上賀茂神社が、密接につながっていることがわかりました！^^

貴船神社と鞍馬寺の関係については (ウィキペディアより)

「日本後紀に、延暦15年(796年)、東寺の造営の任に当たっていた藤原伊勢人の夢に

貴船神社の神が現れ、鞍馬寺を建立するよう託宣したと記されている。」とあることから

上賀茂神社、貴船神社、鞍馬寺に、三角形(三位一体)が見えてきました

貴船神社には、女性性、アマテラス、天津神、神界を強く感じ

鞍馬寺からは、男性性、スサノオ、国津神、天界、等が連想され、対称的です

先に、「鞍馬は貴船にくるためにあった？」と感じた理由が、なんとなくわかったような気がします^^

「貴船大神の託宣によって、鞍馬寺が創建された」事からもわかるように

鞍馬寺(天界、仏界)は、貴船神社(神界)によって創造された、神の具体的創造の場であり、

神々の願いを、この地上に顕現するための、システムとも言えるのかもしれません

まさに、サナートクマラ率いる、新G(ニュー・グレートホワイトブラザーフッド)！という感じがします^^

また、神の経綸(進化の計画)である、魚座の時代(競争、物質科学の進化、体主靈従)から

水瓶座の時代(愛と調和、霊性の進化、霊体一致)への移行を、エネルギーとして実感したのかもしれません

2019年7月に訪れた上賀茂神社では、

男性性と女性性が統合された、愛と光の新時代、弥勒の世の到来を感じました！

私の勝手なイメージですが、上賀茂神社本殿には、男性版天照である“**ニギハヤヒ**”の尊が

その隣の相殿には、女性版天照である“**セオリツヒメ**”の尊が

仲良く並んでいるような気がしたのでした^^

“セオリツヒメ”も“ニギハヤヒ”も、これまでほとんど意識したことのない存在だったので

突然の登場に、地上セルフは？でもありましたが

自身のハイアー連合(新G?)と、そのネットワークからのメッセージなのかもしれません^^

“瀬織津姫”は謎の姫神とされるようですが、私は

伊勢内宮荒祭宮御祭神である、**天照大御神荒御魂=瀬織津姫**が一番しっくりきます

今すべての存在が、新しい宇宙(NMC)の核心である“根源天照皇太神”の元へと帰っていく

=“**根源へのアセンション**”の大きな働きを担うのが、

天照大神荒魂、神人である“セオリツヒメ”の尊なのだと思います

“**根源天照皇太神**”は、あらゆる全てがそこから生まれた究極の母性であり、“**究極の愛の源**”であることが

女性性を中心とした“**アクエリアス(水瓶座)時代の到来**”を物語っているのだと思います

荒魂とは、神の静の側面(和魂、愛)に対する、動の側面であり、事を成す力(実現力)の事で

まさに“**神人**”を象徴している気がします

そして中今、“セオリツヒメ”の重要なパートナーが、普遍の愛の体現者“**キリスト(=天照)**”である

饒速日尊=“天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊”と感じます

“**天照国照**”とされるのは、天と地、両方の太陽であり、“**天照大神荒魂**”の別の表現であるような気がします

神人“**ニギハヤヒ**”の尊なのだと思います

(御神名は、神=宇宙の様々な働きを説明するために付けられた名前であり、働きにフォーカスする事が主と感じます)

更に、二神の背後にあり、守護しているのが、**賀茂別雷大神=“スサノオ”**の尊なのではないでしょうか

スサノオは、地の底から天上まで、どこへでも行く事が出来る万能の神人であり

新G(ニュー・グレートホワイトブラザーフッド)のトップ“**サナート・クマラ**”でもあります^^

貴船神社“**高麗神**”は、“セオリツヒメ”?とも感じますが、まだ何かがあるような気がします。。



写真は貴船神社奥宮の神門です

御祭神は、“**高麗神**”、“**閻麗神**”、“**玉依姫尊**”)とされ

貴船の第一印象は、“**あたたかい太陽の国**”でしたが、この写真からは光と影のコントラストを感じます

光と影は、表と裏——、陰陽の綾なす美に魅了されます

貴船神社さんホームページの中の、由緒欄を開いた時、一瞬ドキッ、としました

黒の背景に、「水は恐ろし 水は尊し」と記されていて、

私がなんとなく“高麗神”という言葉に感じるイメージ、そのままであったような気がします

“恐ろし”には、単純に恐い(恐怖)という感覚以外に、“驚嘆すべき”、“なみなみでない”という意味もあり

ここに見る、驚嘆すべき…、とは何だろう?と思いました



奥宮本殿の下には、“龍穴”があるとされます

“龍穴”は龍の穴、龍とは大地のエネルギーの流れ(龍脈)を指し、穴はそのエネルギーが吹き出す所で
その場所には、靈驗あらたかとされる社寺が、多く建立されているのだそうです

貴船は“日本三大龍穴”の一つと言われ、絶対に見る事が出来ない様、嚴重に管理されているようです

龍穴はその名前が示す通り、龍が住む場所とも言われるようですが

自身の中には何故か、龍について触れてはならない?!という、思い込みのようなものがあり

それは、思わされている? 感覚でもあり、これが“封印”と言われるものなのかもしれないと、今ふと感じました

貴船神社の起源について社記には、創建年代は極めて古く、貴船大神が

「国家安穩、万民守護の為に、太古、“丑の年の丑の月の丑の日”、天上より貴船山腹、鏡岩に天降り」

と記されています。丑・丑・丑…? そこから、鞍馬寺のはじまりである毘沙門天が現れたのが、

“寅の月、寅の日、寅の刻”と記されていた事を思い出しました

丑と寅。。。丑寅 = **良の金神?!** 地球神であり、良の鬼門に押し込められたとされる“**国常立大神?!**”!

私の中にあった、封印へとつながった気がします

国常立大神の良の金神とは、大本教から出た言葉であるようです (下記、ウィキペディアより)

「国之常立神を重要視し、日本の歴史に大きな影響を与えたのが新宗教大本である。

1892年2月3日、京都府綾部在住の無名の老婆出口直(なお)は「良の金神」と恐れられる

祟り神の神懸かり現象を起こした。古神道や伯家神道の知識を持つ出口王仁三郎は、直に懸かった神を

「国之常立神(国常立尊)」と判断。国祖である国常立尊はその統治に不満を持った神々により鬼門の方角に封印されたが、現在になり復活の時が近づいているという終末論を主張した。」

大本教や国常立大神について、詳しいことは存じ上げませんが、

国常立尊はとても正義感に溢れた存在で、万民の幸せを願うが故に、厳しい律法を定めた事から多くの反感を買い、隠退を強いられることになってしまった、と理解していました

「モーゼの十戒」が連想されました。その内容を改めて見てみると、当たり前の事が

「～してはいけない」という言葉で表現されていて、人の幼さ、意識の進化の歴史というものを感じました

国常立尊の律法も、私達現代人からみれば、当然の事であったのかもしれませんが

人類は長い道のりを、神(界)や天(界)に見守られながら、一步一步進化し、今に至ったのだと思います
喜びも悲しみも、そのすべてが実る世界が“弥勒の世”なのではないでしょうか

国常立大神が祀られている神社をネット検索してみると、そのものズバリ“**国常立神社**”がありました！

奈良県の天香久山山頂に、なんと、貴船御祭神である“高麗神”と並んで祀られているのを見て、ほっこり^^

どのようなご関係かはわかりませんが、仲の良い証なのでは？^^ (小学生レベル、笑)

もしかしたら、“高麗神”とは、国常立大神の後とされる“**豊雲野大神**”の事でもあるのかもしれませんが

“天香久山”は万葉集で、よく知られているのではないのでしょうか

大和三山の一つで、古来から「天」という尊称が付くほど、三山のうち最も神聖視された山との事です

平城京に遷都されるまで日本の首都とされていた、藤原京の東にあることにより

“太陽信仰の地”であったともいわれるようです

南麓には、天照大神の岩戸隠れの伝承地とされる、岩穴や巨石を神体とした天岩戸神社もあり

高天原の雛形のような場所、と感じます^^

“龍”とは、神の働き、エネルギー体となって動く様を表しているのだと思います

国常立大神は、日本列島そのものである“金龍神”、内助の功 豊雲野大神は“銀龍神”とされるようです！

この度の鞍馬寺&貴船神社訪問で、**私の中の“龍”が、とうとう表に現れた！！(封印解除？！)**

そんな気がして、清々しさを一杯です！(*^^*)

地・水の“龍”と言え、天・火の“鳳凰”が浮かびますが、私は“**豊雲野大神**”に美しい“**鳳凰**”を感じます

“鳳”は雄、“凰”は雌(皇の文字が?)とされる事を今初めて知り

雌雄(太陽と地球、火と水、愛と力)が揃った姿であったことに、とても感動を覚えます

絶対に見てはいけないと言われる貴船の龍穴とは、地球神である国常立大神が大切に守ってきた

鳳凰の住み家であり、根源太陽の国“シャンバラ”(新・真のレムリア)への入口なのかもしれません！^^

「鳳凰は、麒麟、亀、竜とともに四霊の一つに数えられ、徳の高い君子が天子の位につくと出現するという、

めでたい禽鳥(きんちょう)と考えられた。」(日本大百科全書)とあり

長い間封印されていた日の本の黄金龍体 = 地球神“国常立太神”復活！！！！

その背に乗るのは、日本に住む私達です！

今年の大河ドラマ「麒麟がくる！」は、
まさに2020年に向けての預言?! 胸躍るメッセージであるような気がします!



突然ですが、
自室の本棚の上に飾られている**布袋さん**と**七福神さま**です^^



ほっほっほ
(照れ笑い?!❤)

これまで、七福神さんの正式なメンバーについて、キチンと学んだことがなく
中心の大きな黒い布袋さんを、大黒天さんだと思っていました(笑)
改めて調べてみると、なんと、布袋さんは、**布袋尊**だった(聞き違えていたみたい)のです
ちょうど中今意識されていたテーマでもある、“尊”=神(の如き)人につながり、ビックリです!(あっ、尊天?!)
七福神さんの中で、唯一実存していたのだとか^^
いつの頃からか? 気付くと私の枕元に置かれていて、自室が改装された後に、今の場所へと引っ越しました
他のゴールドの七福神さんは、2020年になって、屋根裏部屋からひょっこり出てきたもので、
部屋が、たいそ一賑やかになった感じがします(招福開運・至福千年?! めでたやな~^^)
毘沙門天さんは、鞍馬寺のはじまりであり、“尊天”の一柱としてご活躍です
弁財天さんは、貴船神社でしょうか?
布袋尊が、“**弥勒菩薩**”の化身であることを知ったのは、数年前です
弥勒菩薩と言えば、京都広隆寺の“**弥勒菩薩半跏思惟像**”が浮かんできます^^

右手を軽く頬に当て、どうしたら一切衆生を救う事が出来るだろうかと考えている…慈愛の仏様
学生時代から、何故だかわからず気になっていた広隆寺へ、2015年6月、行くチャンスが訪れました

11月にしか公開されないとされる、秘仏“聖徳太子像”が普通に見えていて、

後になってビックリ?! という経験があります

歴代天皇が即位の礼に着用するとされる黄櫨染(こうろうぜん)を纏った姿は、人の立ち姿のようで

まさに、人の姿をした神、“神人”との邂逅のようでもあり、そこから生まれたのが

根源アセンション・プロジェクト“白(ハム)山”において、2017年12月に発進したコンテンツ

『聖徳太子からのメッセージ』 <http://ascension-hokuriku.net/5-hakusan/2017.12.3.pdf> です! ^^

聖徳太子が記したとされる『未来記』には、“弥勒菩薩”が地上に現れ

人類を救済する時が現代であると、予言されているようです

釈迦入滅から56億7千万年後にこの世界に現れ、多くの人を救済するとされる“未来仏”。。

今、“**ウイングメーカー**”と浮かびましたが、ウイングメーカーとは未来からやってきて今を変える救世主とされ

ですが、神界や天界に時間は存在しないのだとしたら、神界と天界を統合したそのポータルである

今ここ、地上の“神人” = “ウイングメーカー”であり、“未来仏”であり、“弥勒”! なのではないでしょうか?!

弥勒菩薩は、サンスクリット語で「**マイトレーヤ**」(キリスト=愛、太陽)とも呼ばれ、ネット情報によると、

“マイトレーヤ”が世界教師として地上に現れ、人類を導く日が間近となっている! とあります^^

そうになったらどんなに素晴らしいだろうと、ワクワクしていた私ですが

よく考えてみると、すべては共鳴・拡大の法則であり、私のように、「待っている人」でいる限り、

「待っている——」、……状態が続くだけなのでは? (笑)と思えてきました

という事で、我が家の布袋さんに、愛と感謝と決意をこめて

NMC

◀大祈願▶

我らが人類と呼ぶ中心より 根源の愛と光の大計画

根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SAN

<http://ascension-hokuriku.net/index.html>

を成させ給え

究極の愛と光と力とをもて 地上に大計画を 興させ給え!

ascension-hokuriku.net/5-hakusan/2017.5.1.pdf

『私も NMC 創生の“弥勒”である事を、ここに宣言いたします!!!』

2020年4月8日 皇美(善美 rumines)

当たり前とっていたことが、当たり前でなくなった時
すべての人の内にある“愛”の力が、どれほど尊く、偉大であるかに気付くのだと思います
愛ほど、あたたかく、美しく、強く、そして深きものは、どこにも存在しません

地上セルフはずっと胸の中心に、今にも破裂しそうな爆弾？を抱えている気がしていました
時に思わず手で押さえたりして、弾けてしまわない様、誰にも気付かれない様、大切にしてきました

それは、**黄金の菊**=“**根源の究極の愛の太陽**”でした

白山菊理姫と新 G の核心にあるのは、根源太陽の“∞の愛のパワー”です！！

2020.5.7 鞍馬寺ウエサクの日 白山さんにて参拝中に、「ドン！」という太鼓の音が。。。？
浮かんできたのは、巴紋が描かれた太鼓の絵？！ 天狗さんが叩く“シャンバラ開門！”の合図かも^^



“菊の理” 白山菊理姫 & 新 G (WBH)